



巻頭言 「OBIの学習環境整備に尽くす」

教務主任 福井誠 先生

□

OBIニュース22号、増田学院長記載の巻頭言「18年目を迎えるOBI」には、お茶の水聖書学院の設立経緯が記されています。その流れの中で、今年も4名の卒業生を加え、累積合計163名の卒業生を送り出すことができました。OBIの卒業生の多くは学びを生かし、教会に仕えています。さらに学びを重ね、教会を建てあげる働きに携わるようにもなりました。主が増田学院長をお立てになり、ここまで導いてくださったことに感謝するものです。



さてOBIは、昨年福音主義神学校協議会に加盟し、聖書教育機関として福音主義神学校諸校の認知を得ることができました。世良田副学院長、藤原副学院長の働きを主が豊かに用いてくださり、福音主義神学校協議会に好意的に迎えられたことは、大変大きなことでした。これをもってOBIはさらに公共性のある学舎として、学生の学ぶ意欲に応え、諸教派・教会の牧師に仕え、支える者を送り出すように整えられていきたいものです。そして同時に、他神学校の認知に応える、カリキュラム内容を整備し、近い将来教職者を養成するコースを設け、学生層の幅を広げていきたいと願っています。

考えてみれば数年前より手がけてきた多くの事柄は、こうした公的聖書教育機関としての整備を進めていくものであったと思わされます。たとえば、学院生・同窓生の多くの方々のご協力により、この1年間で図書の出し出し環境を整備出来たこともそうです。神学校教師の重要な働きは、意欲ある学生に対して学びの方向性を与えることであろうと思います。ですから、図書環境が整備されていくことは、聖書教育機関にとっては最重要課題であろうと私は思うのです。ことにOBIは聖書科の通信教育の門戸を開いております。地方にて働きながら通信教育で大学を卒業した私にとっては、専門書を得る苦勞がよくわかります。地方の大きな図書館でも、なかなか専門書は手に入らず、論文を書く際にはほとんど困ったものですから、大学に図書を請求し、送られてくるシステムには非常にありがたみを感じたものです。そういう意味で地方の学生も視野に入れて充実した学習環境が提供できることを願い、有志の助けにより、進められた図書情報のデータ化とセルフ貸し出しシステムの開発は、これから多に活かされて行くものとなるでしょう。

また、すでに述べたようにOBIは聖書科通信のコースを開設してきました。3年実績を積んだというよりも、3年かけてようやく科目数も何とか揃い、これからコースを提供できるようになったというのが本当です。そして時代は、いやがもうにも情報化を進めています。中学生の我が娘や息子も、パソコンを自由自在に扱い、塾のレポート提出や履修登録をやる時代です。そういうすぐ後から押し寄せてくる時代の波を考えると、学校教育機関の教育や管理のあり方を、先を見通して構築していく必要があるでしょう。そういう意味では、ネットコースの経験を土台に、この1年間で「おびねっと」を開発し、obi-net名のアドレス配布をなすことができたことも、重要なことでした。「おびねっと」は、国立情報研究所が、小学生でも利用できるシステムをうたい文句に、大学教育機関向けに提供しているリソースを用いて開発したのですが、そういう意味では、OBIも日本の大学教育機関の動きと共に、これからの教育運営・管理のあり方を考えていくことになると思います。まだまだ先の見えにくいIT化の動きを考えながら、講師、在校生、卒業生が自由に学びと情報の交換ができる、新しい学習共同体作りを進めていくことが出来ればと、願われているところです。

なお、お茶の水はやはり地の利のよい場所ですから、東京の地の利を生かした聖書教育機関であることをも考えていく必要があることでしょう。ともかくも、このような複合的なビジョンのもとに働きを進めていくためには、OBIの同窓生が、卒業後もOBIを愛し、OBIを育てていただくこと抜きには考えられないことです。これまでも経済的に支えてくださったことを感謝していますし、また実際的な奉仕などの援助をしてくださったことも感謝です。皆さんの心遣いをありがたく思いつつ、なおも助けていただきたいと思います。

第13回 OBI 同窓会総会



年に一度の同窓会がお茶の水クリスチャンセンターの9階で、5月1日に行われました。増田学院長、世良田副学院長、藤原副学院長、福井教務主任の先生方をお迎えし、口の字型に机を並べ、26名の同窓会になりました。

中島兄の司会で、「ガリラヤの風薫る丘で」を賛美した後、杉山姉のお祈り、三浦同窓会会長の開会宣言に続き、増田学院長から奨励をいただきました。

ヨハネ15章27節から「初めからわたしといっしょにいたからです。」と、OBIの歴史をひもとき、順々と話されますと、熱い思いがこみ上げてきました。ここまで、主が導いてくださっている。毎年が「エベン・エゼル」。感動が広まりました。OBIで学ばせていただいたことを感謝し、また賜物を生かして証人として遣わされていることを、再確認させていただきました。続いて、福井教務主任が、現状・近況報告をされました。

次に、議案に入りました。前年度の決算、会計監査、今年度の予算、同窓会の歩みの報告と順調に議案が進み、規約の審議になりました。現状に合わせることで、また、新規食事執事を数名設置すること、アドバイザーには教職が1名入ることなど、ひとつひとつ確認しました。今年度の役員は次のように改選されました。

会長:三浦秀弥兄 会計役員:戸川偕生兄 総務役員:中島總一郎兄 食事執事:米田由起子姉

会計監査:田中恵子姉

アドバイザー:増田誉雄先生、杉山礼子姉、浪井弘子姉、飯島多稼夫兄

第2部は、愛餐会です。浪井姉の司会で、賛美、お祈りのあと、お弁当を広げました。自己紹介・近況報告では、ひとりひとりお話ししました。最近、最愛の夫人を天に送られたH先生、大きな病気を経験されたS兄。教会の奉仕に、また試練に、それぞれが立ち向かい、感謝し、歩んでおられるお姿に感動しました。

先生方の近況も報告されました。どれほどOBIのために祈られ、尽力されたのでしょうか。先生方の愛にOBIは包まれています。続いて、研究科・後援会の報告があり、「したいまつる主の」を賛美し、繪鳩先生のお祈りで閉会となりました。

(第6期生 米田由起子)



第十五回卒業生 新入会員紹介

「OBIでの学びは神からの賜物」

加茂 康一

ある礼拝で牧師のメッセージを聞いて感銘を受け、聖書を深く学びたいと思いました。OBI卒業生のある姉からOBIを紹介されたのですが、学習意欲はあるものの、年齢のことを考えると、卒業はおろか学び通せるかどうか全く自信がありませんでした。そのような私が結局4年間の学びを終え、卒業レポートを提出することが出来たのは、神の賜物であります。「霊に燃え、主に仕えなさい。」(ロマ12:11)と書かれたOBIの玄関に掲げてある本田弘慈先生の筆になる額を見て、心のうちに燃えるものを感じ大きな支えになりました。また授業はどれも目が開かれる思いで非常に興味がわき、同級の主にある兄姉との交わりも大きな励ましになりました。

卒業レポートのテーマは「イスラエル王国の誕生からヘロデ王朝までの変遷」(南北王国の歴代の王と預言者の対応一覧)にしました。

イスラエル王国の滅亡にいたる歴史は、神への背信の歴史であり、世界の歴史の縮図をみるようで、そこに神のご意思が働いておられるように思われます。イスラエル王国誕生の経緯、南北に分裂した原因と結果、南北の歴代の王の人物評、預言者とその時代との関わり、列王記と歴代誌の記述の違い、人種や部族の問題などが旧約の中心思想を軸に展開し、興味が尽きません。

列王記と歴代誌は、その記述が南北に飛び、しかも王と預言者の名とがほぼ同時代に南北に重複しているため読んでいて混乱してしまいます。表の作成にあたって、歴代の王朝を南北に分け、年代を合わせることによって、混乱なく読めるようにしました。北王国と南王国および諸外国と整合性をとるためにその年代ごとに何度も読み返し確認しなければなりませんでした。その都度新しい発見がありました。なかでもバビロン捕囚については、聖書の記述を時間軸に合わせて表にし、あいまいになり易い所をはっきりさせました。またエルサレム滅亡に当たってエホヤキム王とゼデキヤ王の最期については、列王記と歴代誌およびエ

レミヤ書の三書は記述が異なっており、その理由を推測することも興味がありました。

当初、南北王国の歴代の王と預言者の対応一覧表だけでしたが、添え文を書くことになりました。短い簡単なものを予定しておりましたが、聖書を読み参考文献を読み進めるうちに、旧約の世界の不思議な魅力に引き込まれ、思わず長いものになりました。サムエル記から中間時代を経て主イエスの来臨にいたるまでの流れに神の御業の確かさを見て感激いたしました。短期間にしてはかなりの量の参考書と聖書を、ノートを取りながら読むことは大変でしたが、むしろ喜びでありました。担当の西教授には手術前後にも拘らず、各文献との整合性をとることや論文にふさわしくフットノートをつけることなどを丁寧にご指導くださりまして大変感謝しております。

「贖われた私」

須子 都

この度、卒業に当たりOBIでの学びの数々に感謝いたします。卒業と言っても、まだまだ中途半端な者ですが、主の哀れみによりここまで導かれたことを実感します。OBIに招かれましたのも、「私が、あなた方を選び、あなた方を任命したのです。」(ヨハネ一五—十六)のおことばを卒業に当たり牧師より頂きましたが、これは主の導きによることであったことを思い、今、気が引き締まる思いであります。

卒業研究レポートを書くにあたっては、テーマ選びに時間を要しました。2007年4月に西師の旧約聖書を受講する恵みに導かれ、当初はレポートのテーマはまだ決まっていませんでしたが、聖書の中の人物として、ルツ記のルツが考への中にありました。その様な中、旧約の授業では贖いについての学びがあり、イエスキリストの十字架により贖われた私でありながらその意味を真に理解していない者であることに気付かされました。西先生にレポート作成についてのご指導を仰ぎながらのテーマ決定。タイトルは『ルツ記のゴエールと旧約聖書の贖いについて』となりました。いずれも授業で取り上げられたものです。項目は3章に分けました。

第1章は「旧約聖書に記された『贖いの思想について』」これは西先生の書かれた『旧約聖書の思想と概説』(上巻)を十分に参考にさせていただき、1. ガーアル、その意味と訳語、2. ゴエール、3. パーダー、4. カーファル(キツペル)、です。テキストとその聖書箇所を引用しながら書かせていただきました。この中のガーアル(買戻しの権利のある親類)の訳語、とガーアル(贖う)の訳語を、口語訳聖書、新改訳聖書、新共同訳聖書の3冊で比較、表にするのに時間を費やしましたが、それぞれの意味を理解するのに助けとなりました。

第2章は「ルツ記の物語とゴエール(異邦人、ルツがおかれた環境とボアズとの出会い)」1. モアブの地で、2. ボアズの畑で、3. 打ち場にて、4. 門にて。それぞれサマリーと簡単な解説を入れましたが、聖書を読むことに真剣に臨み、私にとり、このルツ記は聖書熟読元年ともいえます。遅れさせながらですが。

第3章は、「旧約聖書におけるゴエールの用法と新約聖書の十字架の贖い」。1. レビ記のゴエールとルツ記のゴエール、2. ヨブ記のゴエール、3. 民数記における復讐者としてのゴエール、4. イザヤ書のゴエール、5. 新約聖書における贖う方としてのイエスキリスト。これらは、今まで聖書を深く読み込んでいなかった者として、指導教授の西先生が丁寧にご指導下さることにより、よく聖書を読み、調べ、確認するという事が可能になりました。

顧みれば、レポート作成に努力を要した1年でした。また、パソコンでのレポート作成は初めてでしたので、大変苦労しました。提出時に教務の福井先生に添削、指導をして頂き、大変助かり感謝いたしております。全て良き訓練の時をも与えられた事と、実感しています。また、新たなる歩みの始まりです。特に、この学びを通し、キリストが贖いとなって下さったことを、今年のイースターは特に痛切に感じ、キリストの受難、そして復活のその喜びはひとしおでした。贖いの意味を旧約聖書から新約聖書にいたるまで、このレポート作成を通じ、確認できたことは、これからの歩みにどんなにか助けとなることか思われています。

復活されたイエス様が、弟子たちの前で言われたことば、「見よ。私は世の終わりまで、いつもあなた方と共にいます」(マタイ28:20)。この心強いことばに、恐れることなく、主に信頼し、主にゆだねて、主に仕える者としての歩み続けさせて頂く思いに迫られます。このレポートを作成するに当たり、西先生に丁寧に忍耐を持ってご指導いただけましたことに深く感謝を覚えます。また、同時に諸先生方の今までのご指導、励ましのお言葉とお祈りに感謝いたします。

「卒論を書くにあたって」

菊田 洋子

私の場合は、卒論と言う程のものではなく、卒業レポートと言って良いようなものですが、取り組むに当り四苦八苦致しました。

四年間学ばせていただき、その終わりも近づきつつある頃の十月に、単位の確認をさせていただき、足りてるとの事にて卒業はOKですと伺い、急きょ卒業への思いが与えられました。これ迄は何の準備も心積りもないままの唐突な行動です。十一月中に卒業研究の計画書を、指導教員にお願いして、提出して下さいとの事。これは大変、もう一年延ばして、テーマを決めた方が良かったのではないかと。

しかし、思いが示されたのだから神様が導いて下さる事と信じ、祈りつつ、取り組みました。

それにしても、四年間も素晴らしい先生方のもとで学ばせていただきながら、何のテーマも、問題意識も持てない自分に気づかされ、情けない思いでした。そこで今年度学んでいる「ライフサイクルと信仰」から、証し的に、「我が人生は神に選ばれし」と題し、自分の育成歴等を振り返り、自分自身を分析してみるのもよいかと思っはみたものの、心理学的見地と信仰的見地とを融合させながら焦点をしぼる事の難しさを覚え、このテーマは没。

では何をと思っている時、私は神様の愛によって生かされているではないか、「すべては愛の実り」、マザーテレサのこの言葉が思い出され、聖書に一貫して語られている愛をテーマにしてみようという思いが与えられました。

「神は、そのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに命を得させて下さいました。ここに神の愛が私たちに示されたのです。」(第1ヨハネ4：9)

今日、物が豊かにあり、科学、文明の進歩があっても、心は愛に飢え渴き、愛されている実感のない「愛されたい症候群」等と言われている混沌とした現代社会は、憂うる出来事ばかり。ここに神様の愛を伝えていくのがクリスチャンの使命ではないか。このレポートを書く事により、私自身が福音を証し出来る者へと変えられる事を期待しつつ、題目を「すべては愛の實り」とし、副題として「旧約に示された神様の愛が新約で成就する迄」に決めました。指導教官は増田先生にお願い致しました。

マタイ福音書第一章の一節～十七節迄の中より、アブラハム、イサク、ヤコブ、ダビデ、ソロモン、タマル、ラハブ、バテシバ、そしてマリア。これらの人物に絞って、その時代背景、生涯を通して、どのようなドラマが展開され、歴史舞台が造られて来たのか。壮大な旧約の世界に描かれし選民たちへの、神の愛が連鎖となってやがて新約にて示される究極の神の愛の實りへ、限られた時間の中で、余りにも限りなき愛のテーマを、一か月半程、聖書や関連書物を読み、といっても毎日読めたわけでもなかったのですが、年明けて、一月四日より書く事に従事。二月十一日の提出を目指して、二月五日、決められたページ数に何とかまとめ上げました。増田先生よりOKいただいた時は大変うれしく、よかったという安堵感と達成感をいただきました。主に感謝、諸先生にも感謝です。

今思いますと、もう少し時間をかけて書き加える部分が多くあるようにも思えるのですが。卒業するに当たって書かせていただいたこの体験は、神様から私への貴重なプレゼントだったと思います。

「アウグスティヌスさんありがとう！」

古賀 文子

2005年4月に入学して2年後、区切りをつけるために、卒業を意識し始めました。

2006年度の卒業式に参列。「やはりきちんと卒業しよう。」そう決めて、卒業に向けて意思表示をさせて頂きました。

卒論を出さねばならないと聞いた時は、もう少し早く考えておくべきだったと、強く思わされました。

ともかく、何かを書かねばなりません。色々思い悩んだ末に、現在進行中のほうが気持ちを向けられるのではないかと考えて、2007年になって学び始めた教会史を選びました。

次は、どのようにするかでした。長い歴史を紐解く時間もない、と言うわけで、1人の人物を選んでその人物の人となりや、業績、生涯をまとめようと決めました。

教会史の教科書として使われた本の初めに出てきた神学者の名を見ながら、どの人物が良いのか決めかねていました。

まだ神学を深く学んでいなかったもので、薄い知識しか持ち合わせていませんでしたが、聞いたことがある神学者であることだけで1人の人物を選びました。

夏休み前に指導して下さる先生も決まりました。さて次は資料集めです。大変なことになりました。

ふたを開けてみると、その人物はかの有名な「アウグスティヌス」ときたものでしたから、難しい著書類の山だったのです。後戻りは出来ません。とにかく総合的に書かれてある本を読みながら、とりあえずはどうしても読まねばならない書物を求めて古本屋さんを回って、本を手に入れました。

夏休みにはいるとすぐ取り掛かりました。まず、先人達が書かれた本を参考にして、生涯とか、人となり等を書き進め、写真も入れました。何とか全体像が出来上がってひと安心。

最終的には自分の考えも、その中に入れていかねばならないために、今度ばかりは拾い読みでは済まされません。

寝てもさめても「アウグスティヌス」が追っかけてきます。カバンの中に本を入れて持ち歩き、電車の中で読み進めました。

そのようにしていると個人的にもだんだん親しみが沸いてくるのですから不思議なものです。

最終的にはアウグスティヌスに、はたまた、古本屋さんに随分つき込んでしまいました。

「アウグスティヌス」は、色々な書物に必ず出てきて、沢山の信仰の偉人、神学者の中では大変な有名人で、偉大な神学者と理解しました。卒論を進めるうちに「彼に会って良かった。」そう思えるようになりました。

彼は、ちょっと変人で、とっつきにくい人です。気難しくて、「1人で一生本ばかり読んでいれば！」と言いたくなるような人です。でもとても愛すべき人物です。

学ぶところは、聖書のみことばを、神様から頂くときの姿勢です。聖書を何度も何度も読み、聖書からい頂くまで動かない。神様が教えて下さるまでじっと待つこと。

わたしは、「そう出来たらいいな」から、「そうしたい。」「そうしよう。」と変えられていきました。アウグスティヌスさんありがとう！

以上

2008年5月1日、第13回同窓会総会にて改正「OBI同窓会規約」が審議、議決された。

改正、決定された「OBI同窓会規約」は、次の通りである。

1. 目的 OBI理事会の主旨(OBIの理念)にのっとり、OBI卒業生相互の互助、交流をはかり、OBIの維持と発展に積極的に貢献する。
2. 名称 OBI同窓会
3. 会員の資格 OBI卒業生(聖書科・本科・聖書科通信、音楽科・教会音楽総合コース)
4. 活動目的 ①懇親会の開催(OBI卒業式出席および卒業生謝恩会への参加等)
②OBI各種行事への参加(サマースクール等)
③会員相互の祈りと近況の交換
④OBIに関する情報提供
⑤その他
5. 組織 会長1名、
会計役員1名、
総務役員1名、
食事執事若干名、
会計監査1名とする。
アドバイザー若干名(内1名はOBI教職理事)
役員任期は2年とする。
6. 会費 1年間 3000円とする。

以上。

編・集・後・記

五月初め、OBI同窓会は学院長、副学院長、教務主任の先生方を御招待、同窓生20名の参加を以て開催されました。総会も厳肅さの中にも睦まじく終えました。

改定新規約の下に、14期、15期二年間、新役員と共に前進して行きます。皆様の背後からの御支援を願うところです。

今回初登板、福井誠先生に巻頭言を賜りました。OBIの学習環境の整備は既に進められています。更なる邁進が望まれます。期待しています。

新入会員加茂康一兄、須子都姉、菊田洋子姉、古賀文子姉の四名の方々、皆様を歓迎いたします。

また、貴重なOBIでの学習体験を御報告頂き、有難うございました。皆さんの同窓会での活躍も期待いたします。

今年も、研究科の学び、旅行、イベントに皆様の御参加を願っています。

研究科では、鈴木和子先生を迎えて、「話しことば」の実践的な指導を受けています。一般生活でも役立つところが多くあります。只今も募集中です。ご参加ください。

昨年に続き、「長崎殉教者の足跡を辿る」旅を10月初め、2泊3日で企画しています。今年は、「五島列島」です。現在企画調査中です。

また、少し先になりますが、「同窓会15周年記念誌」の企画を予定しています。次回26号に詳細を発表いたします。皆さん全員参加の記念誌を願っています。

末筆ながら、皆様、御教会、御家庭の平安があります様に、祈ります。主に在りて。

「OBIニュースレター25号」

発行：OBI同窓会

編集：三浦秀彌

東京都千代田区神田駿河台2-1

OCCビル2階

電話：03-3296-1005

会計報告 2008.4.1～5.1

繰越金79,450円 収入110,000円 計 189,450円
支出 59,988円
差引 129,462円

献金者:(敬称略)

森井あずさ 須田松子 杉山礼子 浪井弘子 三浦喜代子
繪鳩彰 亀井正之 飯島多稼夫 森本馥 三浦秀彌
米田由起子 森 登 松岡常子 田中恵子 増尾善文
福井ちよ 増尾邦子 中島總一郎 日名富子 戸川偕生
以上20名

OBI,OBI同窓会のスケジュール・予定

2008. 7.7～ 7.9 夏季スクーリング 軽井沢恵みシャレーにて
7.8 OBI同窓会懇親会 恵みシャレーにてPM1:30～3:00
2008.7.10～8.31 OBI夏休み
10.18 教会音楽デー
12.4 OBIクリスマス祝会